

2023. 11. 4 (土) 13:00~17:10

第一部 フィールドセミナー

「建築の魅力伝える名古屋大学東山キャンパスの建物」

- 12:40 受付開始
13:00 名古屋大学東山キャンパスの全体説明
13:20 豊田講堂 + 古川記念館 + 減災館 + ES 総合館などを見学
14:50 終了

第二部 講演座談会

「建築の魅力を創ってきた名大建築 60 年」

- 15:00 受付開始
15:20 名大建築で学んだ同窓生が、社会で活躍する姿、今までに携わった建築作品や
街並みを紹介することで、名大建築の魅力を伝えます。
17:10

磯 達雄 coordinator 1988 学部卒

西澤 崇雄 1990 学部卒

長谷川 寛 1990 学部卒

佐々木 真人 1995 学部卒

栗並 秀行 2001 学部卒

謡口 志保 2002 修士修了

川島 真由美 2002 修士修了

同時開催

「わたしのしごと」展 - 同窓生もいろいろ

11:00~19:00 野依記念学術交流館 1F

名古屋大学建築学教室が一九九九年から毎年開催してきた市民向け講座「まちとすまいの集い」は、二〇二三年で二五回目を迎え、また、同年は名古屋大学建築学教室の創設六〇周年も重なります。そこで、それらを記念し、市民や建築界への研究成果・教育成果の還元をはかるべく、特に若手人材の育成を目的として本行事を開催します。

名古屋大学建築学教室創設六〇周年記念事業 「まちとすまいの集い」第二五回記念
「まちづくりとひとづくり」パート2 - 名大建築六〇年

- 対 象 建築に関心のある高校生や市民
会 場 名古屋大学東山キャンパス 野依記念学術交流館 (第1部定員 100名 第2部定員 180名 多数の場合は、高校生を優先します。)
第2部のみオンライン参加可能 (定員 300名)
参 加 費 無料
申 込 URL 「<https://onl.sc/qSY41pw>」または QR コードの登録フォームより参加登録を行ってください。
申込締切 2023年10月27日 (金)
主 催 名古屋大学建築学教室創設 60 周年記念事業会、名古屋大学建築学教室
共 催 名古屋大学大学院工学研究科、名古屋大学大学院環境学研究科
後 援 一般社団法人 日本建築学会東海支部、公益社団法人 日本建築家協会東海支部、公益社団法人 愛知建築士会、
公益財団法人 名古屋まちづくり公社、公益社団法人 空気調和・衛生工学会中部支部、一般社団法人 建築設備技術者協会中部支部
一般社団法人 日本建築構造技術者協会中部支部、なごや環境大学
問 合 せ 名古屋大学建築学教室 まちとすまいの集い 事務局 machi@nuac.nagoya-u.ac.jp



第二部 講演座談会 建築の魅力を創ってきた名大建築60年

名大建築で学んだ同窓生が、社会で活躍する姿、今までに携わった建築作品や街並みを紹介しながら、建築への思い、大学での学びと仕事との関係性を語り、名大建築の魅力を伝えます。

登壇者プロフィール

磯 達雄(1988卒) coordinator 名古屋大学卒業後、日経BP社に勤務し、建築専門誌『日経アーキテクチュア』の編集に携わる。2000年に独立して、フリックススタジオ、オフィス・ブンガなどの編集組織に属しながら、建築ジャーナリストとして活動中。主な共著書に『昭和モダン建築巡礼』『日本のブルータリズム建築』など。



磯 達雄
日本のブルータリズム建築

謡口志保
土間の屋根 棲家の床

謡口 志保(2002修) 名古屋大学修了後、株式会社INA新建築研究所などを経て、2008年よりウタグチシホ建築アトリエを主宰、現在に至る。2011年より名古屋渋ビル研究会の活動をライフワークとして開始。2017年より千駄木マドを運営。すまいを設計することを軸に、建築を記録する、活用する、共感することを通じて、まちと関わる活動を行っている。

第二部 講演座談会 建築の魅力を創ってきた名大建築60年

登壇者プロフィール

川島 真由美(2002修) 大学卒業後に山本理顕設計工場に勤務。埼玉県立大学の設計・監理に従事する。実務を経て再び建築史・意匠を学ぶ為に修士課程に進む。修了後は竹中工務店に入社し、主に集合住宅を手掛ける。独立後は住宅や児童福祉施設、クリニックなど「暮らしの場」に重きを置いた設計活動を行ってきた。最近では都市木造ビルなど木造の新しい可能性を追求した設計に注力する一方で、建築を通して地域コミュニティを考える活動や研究をしており、自ら家開きをして地域に発信する様々なイベントの企画等も行っている。



有松の町並み



川島 真由美
認定こども園 勿来幼稚園

栗並 秀行(2003修) 名古屋大学大学院修了後、名古屋市役所入庁。これまでに、都市計画、再開発事業(久屋大通公園など)、町並み保存(有松地区など)、歴史的建造物の保存活用(揚輝荘など)を担当。現在、観光文化交流局歴史まちづくり推進室主査。

第二部 講演座談会 建築の魅力を創ってきた名大建築60年

登壇者プロフィール

佐々木 真人(1995卒) 修士課程を経て、株式会社日本設計入社。以来、東京本社で環境設備設計群に所属。超高層である虎ノ門ヒルズ森タワーの空調設備設計を担当し、昨年、自社オフィスの同ビル移転時もオフィス環境設計を担当。専門技術は、空調や給排水であるが、社会“環境”や室内“環境”など様々な“環境”のスペシャリストとして設計を行う。担当作品ではサステナブル建築賞国土交通大臣賞など多くの環境系表彰を受賞している。

虎ノ門ヒルズ森タワー



西澤 崇雄(1992修) 1992年名古屋大学修士課程を経て、日建設計入社。専門は構造設計、耐震工学。担当した構造設計建物に、愛知県庁本庁舎の免震レトロフィット、京都市新庁舎などがあり、歴史的価値の高い建物の免震レトロフィットに多く携わった経験を活かし、2016年より歴史的建造物に関連した業務を行う日建設計ヘリテージビジネスラボを率いて活動を行っている。博士(工学)



名古屋市瑞穂
公園陸上競技場



愛知県庁舎

長谷川 寛(1992修)名古屋大学修了後、竹中工務店入社。主な作品にテクニカフクイ新社屋(武生市)、常葉大学静岡草薙キャンパス(静岡市)、グローバルゲート・愛知トヨタ本社ショールーム・金城ふ頭駐車場・中村区役所等複合施設(名古屋市)、トヨタ紡織グローバル本社(刈谷市)など。現在2026年アジア大会主会場の瑞穂陸上競技場・周辺公園の設計中。名古屋大学他の建築学科学生達と公園WSを行っている。